



地域で支え合い 消費者に喜ばれる農業を

イチゴ経営 三潁町 牛原 政史 さん (27歳)

就農のきっかけ

設備関係の仕事を経験後、平成23年に就農した牛原政史さん。実家が米・麦の生産農家であることや、地域の先輩農家からの勧めもあり農業の道に進みました。

就農までの1年間で、先輩農家の元でイチゴの生産技術を学び、現在、両親の協力を得ながら、約21アールの真新しいハウスで丹精込めてイチゴ「あまおう」を生産しています。

地域の二員として

「初めての苗作りでは、本当にイチゴができるのかとても不安でした。」と話す政史さん。栽培技術の面で困った時には先輩農家に助けを求め、ハウスのビニール張りなどの人手が必要な作業がある時には進んで手伝うなど、地域の農家と協力して農作業を行っています。

農業に取り組む姿勢

ハウスの中には、資材の一つ一つが整理整頓され、真面目で誠実な政史さんの人柄が伺えます。

12月～3月の収穫の最盛期には、作業に追われて1日の睡眠時間が2時間しかない時もあり、体力的には辛い毎日が続きましたが、「自分の作ったイチゴを食べた消費者に喜んでほしい。」との思いで、生産に励みました。その結果、就農1年目であるにもかかわらず、「J A みづま平成23年度産いちご優良農家・地区表彰」では、多くの生産者がいる中で、「販売高部門」と『新人部門』の2部門を受賞しました。

「今後さらに栽培技術に磨きをかけ、収量の向上を図っていきたい。」と語る政史さんは、現状に満足することなく、5年後・10年後を見据え、努力を続けています。

